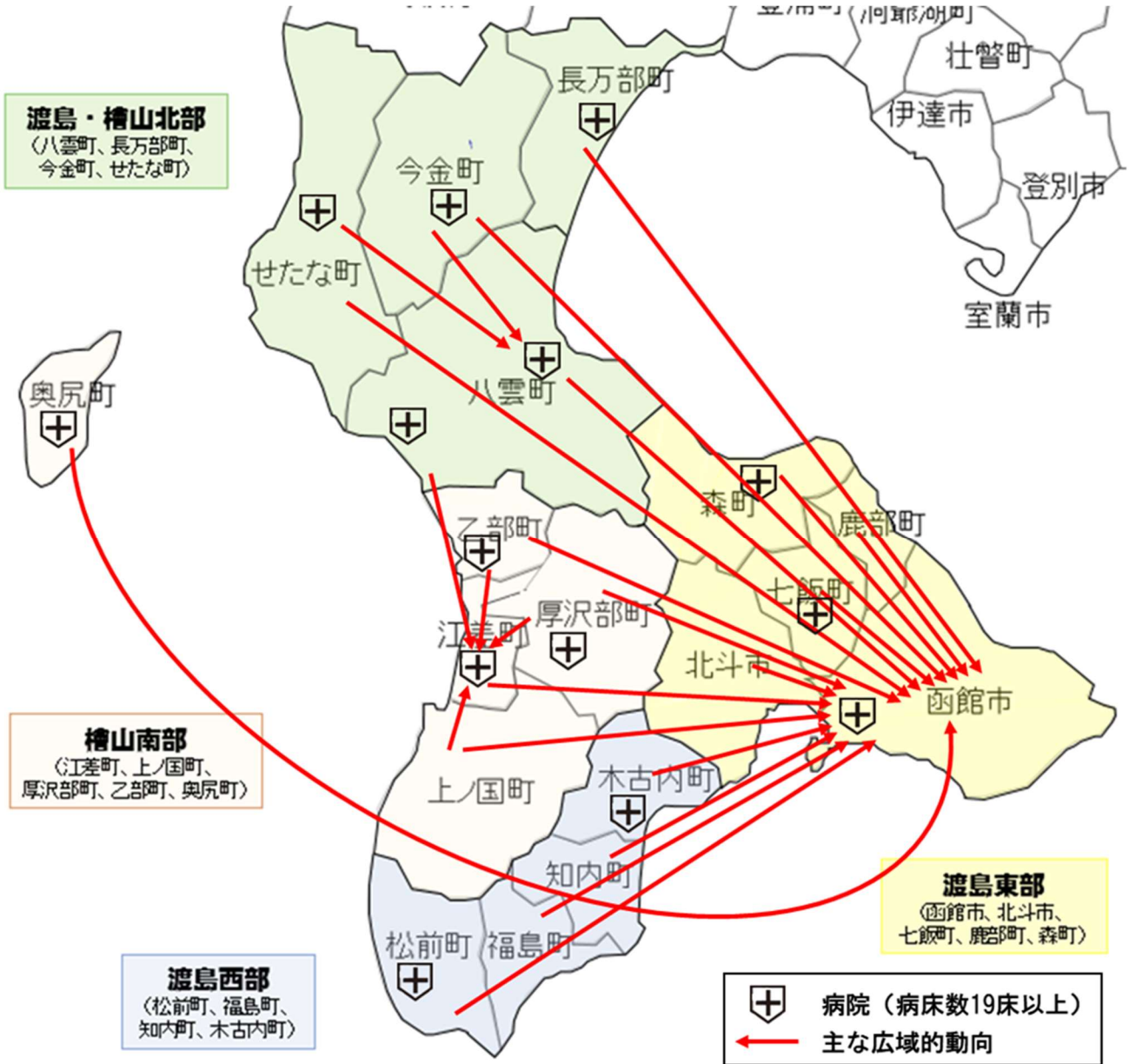


### | 3-5 | 医療機関への受療の状況

医療機関への受療は、中核都市である函館市のほか、各市町に点在する病院への広域的な移動が多く見られる。



【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業「R2.4～R3.3 診療のレセプトデータ (国保、退職国保、後期高齢分)」を加工して作成  
 図 3-14 道南地域における医療機関の受療に係る広域的動向

表 3-6 道南地域の病院

圏域	市町名	病 院 名	所 在 地	
渡島東部圏	函館市	市立函館南茅部病院	函館市安浦町 92	
		国立病院機構函館病院	函館市川原町 18-16	
		市立函館恵山病院	函館市日ノ浜町 15-1	
		函館赤十字病院	函館市堀川町 6-21	
		富田病院	函館市駒場町 9-18	
		高橋病院	函館市元町 32-18	
		函館渡辺病院	函館市湯川町 1-31-1	
		函館中央病院	函館市本町 33-2	
		函館五稜郭病院	函館市五稜郭町 38-3	
		江口眼科病院	函館市末広町 7-13	
		同仁会函館記念病院	函館市亀田本町 36-1	
		仁生会西堀病院	函館市中道 2-6-11	
		函館稜北病院	函館市中道 2-51-1	
		函館おしま病院	函館市的場町 19-6	
		函館市医師会病院	函館市富岡町 2-10-10	
		吉田眼科病院	函館市本通 2-31-8	
		亀田北病院	函館市石川町 191-4	
		函館新都市病院	函館市石川町 331-1	
		秋山記念病院	函館市石川町 41-9	
		函館脳神経外科病院	函館市神山 1-4-12	
		森病院	函館市桔梗町 557	
		市立函館病院	函館市港町 1-10-1	
		北海道社会事業協会函館病院	函館市駒場町 4-6	
	亀田病院	函館市昭和 1-23-11		
	函館おおむら整形外科病院	函館市石川町 125-1		
	共愛会病院	函館市中島町 7-21		
	亀田花園病院	函館市花園町 24-5		
		北斗市	—	—
		七飯町	ななえ新病院	亀田郡七飯町本町 7-657-5
			なるかわ病院	亀田郡七飯町鳴川 4-325-1
	鹿部町	—	—	
	森町	森町国民健康保険病院	茅部郡森町上台町 326	
		新都市砂原病院	茅部郡森町砂原 1-30-59	
渡島西部圏	松前町	松前町立松前病院	松前郡松前町字大磯 174-1	
	福島町	—	—	

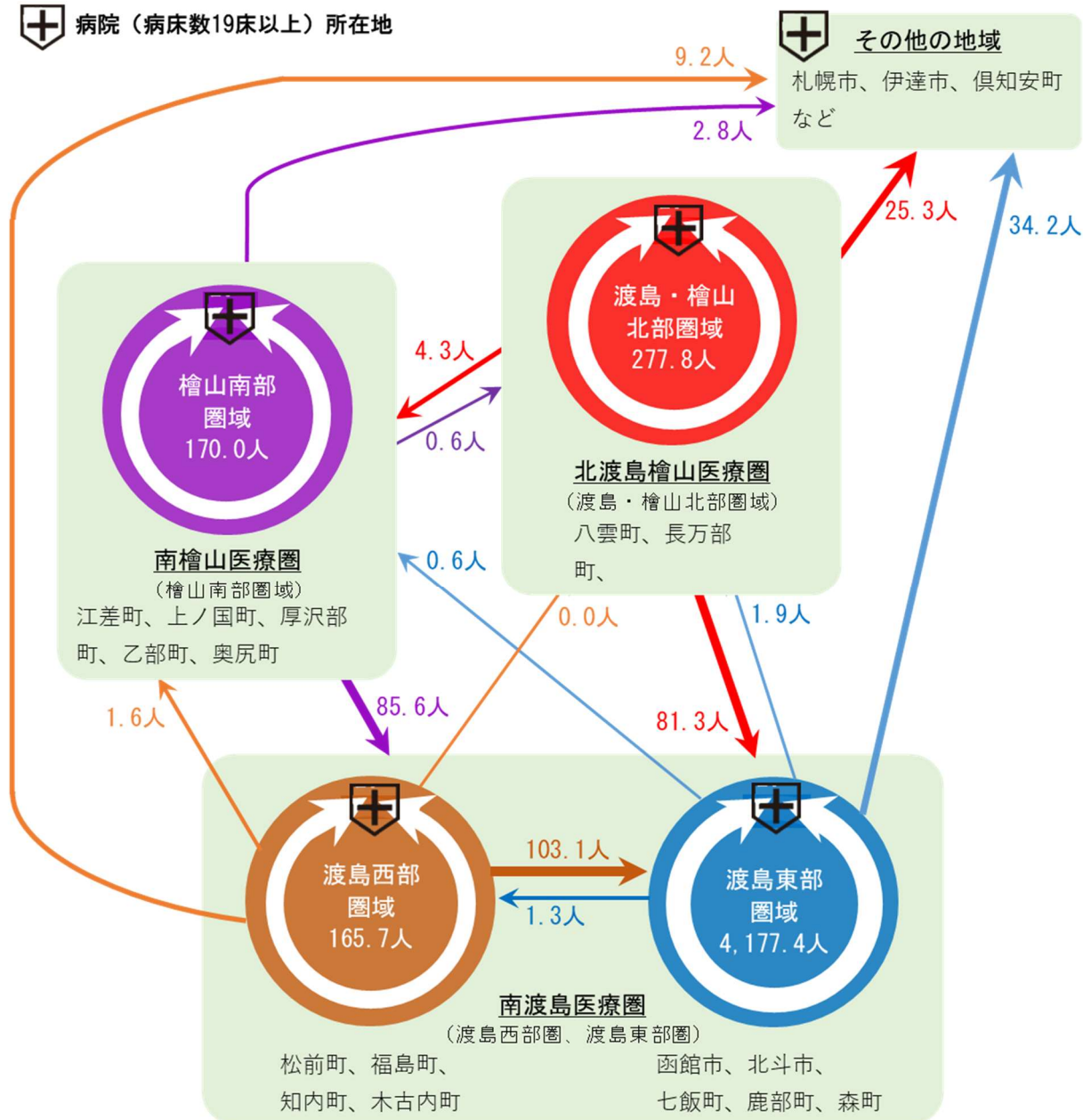
圏域	市町名	病 院 名	所 在 地
渡島西部圏	知内町	—	—
	木古内町	木古内町国民健康保険病院	上磯郡木古内町本町 710
渡島・檜山 北部圏	八雲町	八雲総合病院	二海郡八雲町東雲町 50
		八雲町熊石国民健康保険病院	二海郡八雲町熊石雲石町 491-1
	長万部町	長万部町立病院	山越郡長万部町長万部 18-40
	今金町	今金町国保病院	瀬棚郡今金町今金 17-2
	せたな町	せたな町立国保病院	久遠郡せたな町北檜山区北檜山 378
		道南ロイヤル病院	久遠郡せたな町北檜山区北檜山 322-4
檜山南部圏	江差町	北海道立江差病院	檜山郡江差町伏木戸町 484
		佐々木病院	檜山郡江差町姥神町 31
	上ノ国町	—	—
	厚沢部町	厚沢部町国民健康保険病院	檜山郡厚沢部町新町 14-1
	乙部町	乙部町国民健康保険病院	爾志郡乙部町緑町 704-1
	奥尻町	奥尻町国民健康保険病院	奥尻郡奥尻町奥尻 462

## ア 医療機関への受療実態について

[全体]

- ・南渡島医療圏は通院者が流入超過している。
- ・特に、檜山南部圏からは1日あたり85.6人が南渡島医療圏（渡島西部圏・渡島東部圏）に通院し、渡島西部圏からは1日あたり103.1人が渡島東部圏に通院している。

⊕ 病院（病床数19床以上）所在地



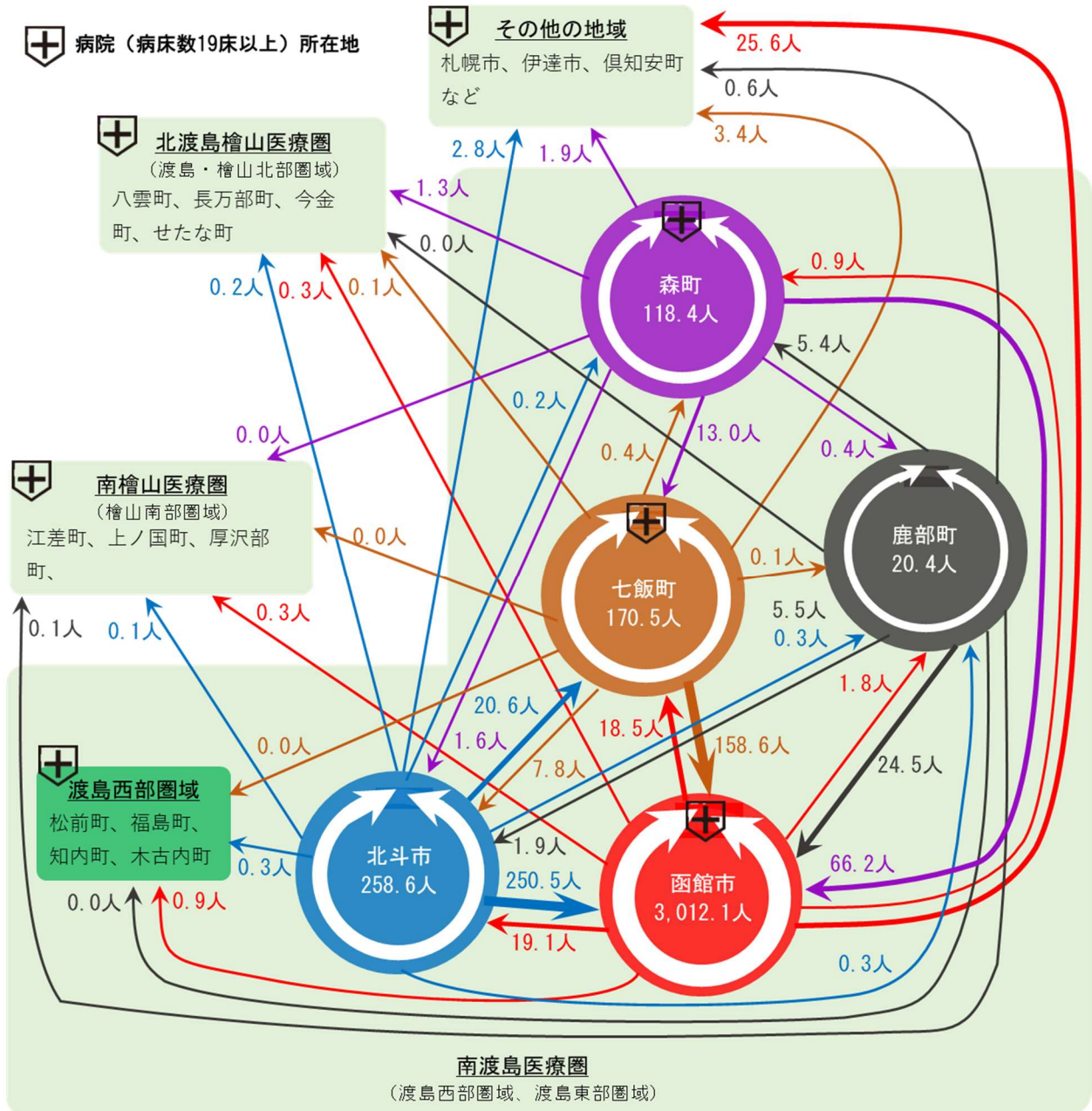
※0.0人は、単位未満の移動があることを指す。

【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業  
「R2.4～R3.3診療のレセプトデータ（国保、退職国保、後期高齢分）」を加工して作成

図 3-15 道南地域の圏域別の受療動向（1日あたりの受療者数）

**[渡島東部圏]**

- ・函館市は本地域の中核都市であり、多くの医療機関が立地しているため、渡島西部圏、渡島・檜山北部圏、檜山南部圏から多くの通院者が流入している。
- ・函館市以外の市町住民の通院に関する移動先は大半が自市町内と函館市である。
- ・森町は他市町と比べ、渡島・檜山北部圏への通院者数が多い。



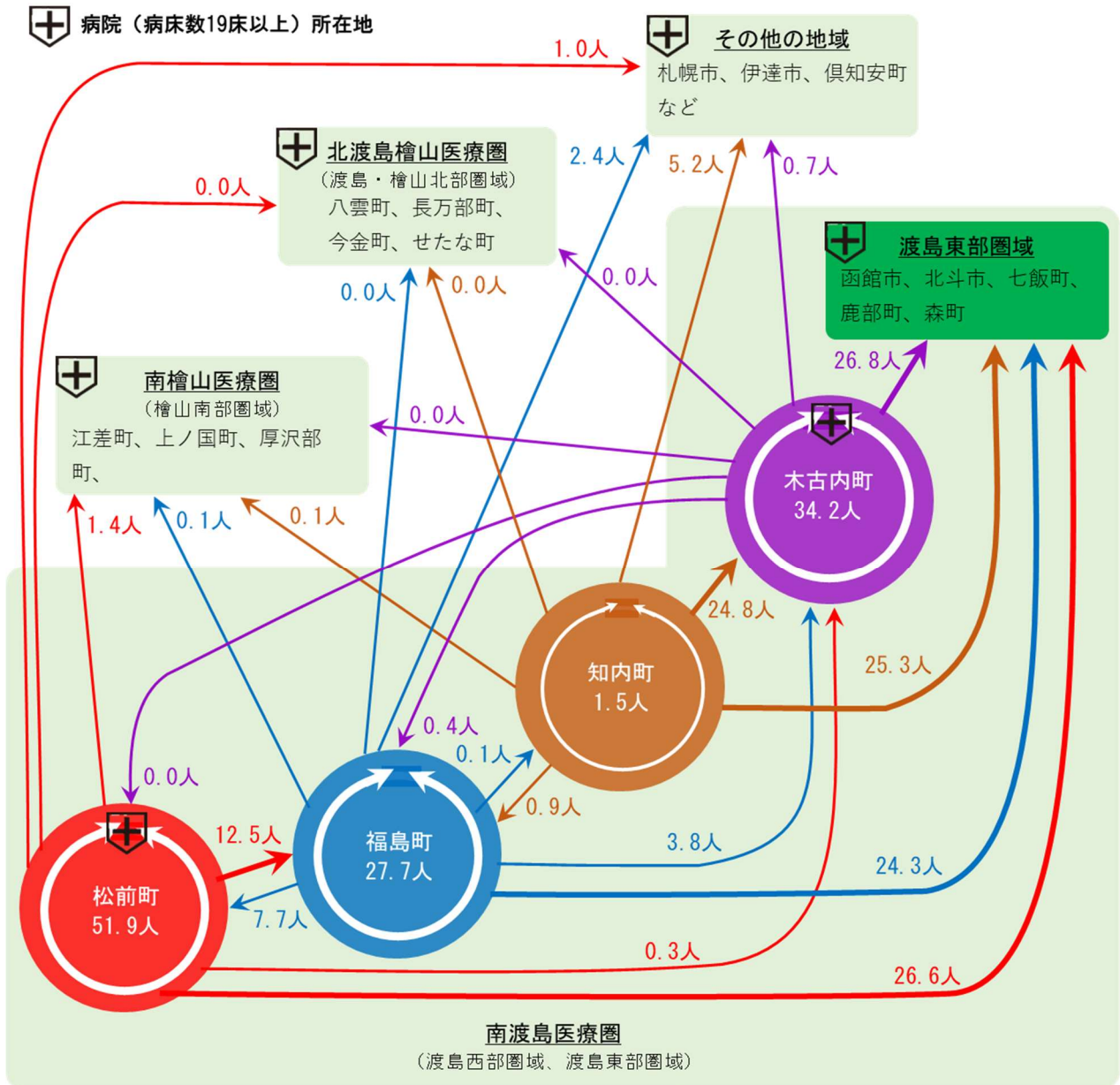
※0.0人は、単位未満の移動があることを指す。

【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業  
「R2.4～R3.3 診療のレセプトデータ（国保、退職国保、後期高齢分）」を加工して作成

図 3-16 渡島東部圏の市町別の受療動向

[渡島西部圏]

- ・松前町、福島町、木古内町は自市町内での通院が最も多く、知内町は渡島東部圏への通院が多い。



※0.0人は、単位未満の移動があることを指す。

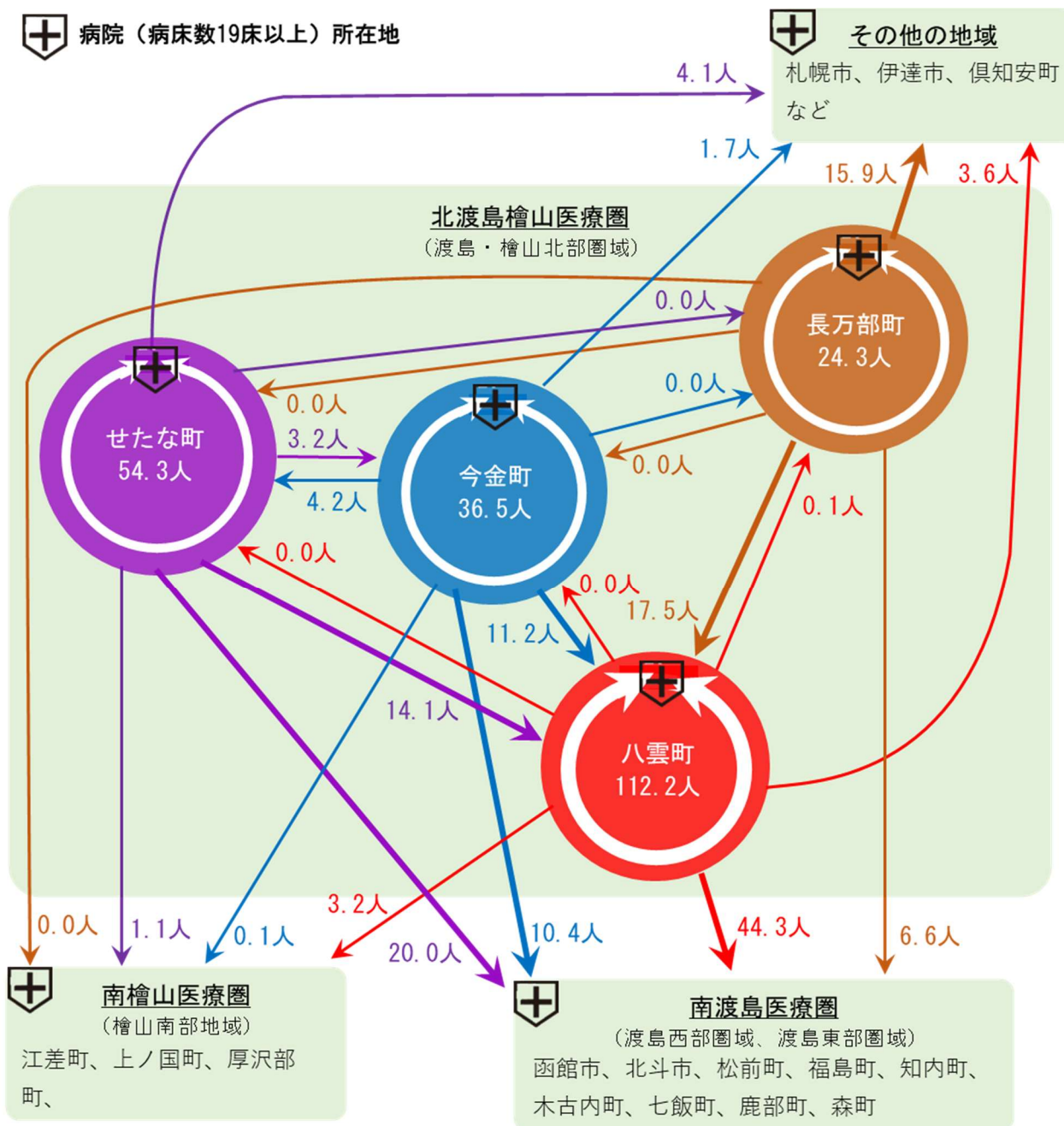
【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業

「R2.4～R3.3 診療のレセプトデータ (国保、退職国保、後期高齢分)」を加工して作成

図 3-17 渡島西部圏の町別の受療動向

[渡島檜山北部圏]

・八雲町、長万部町、今金町、せたな町は自町内での通院が最も多い。



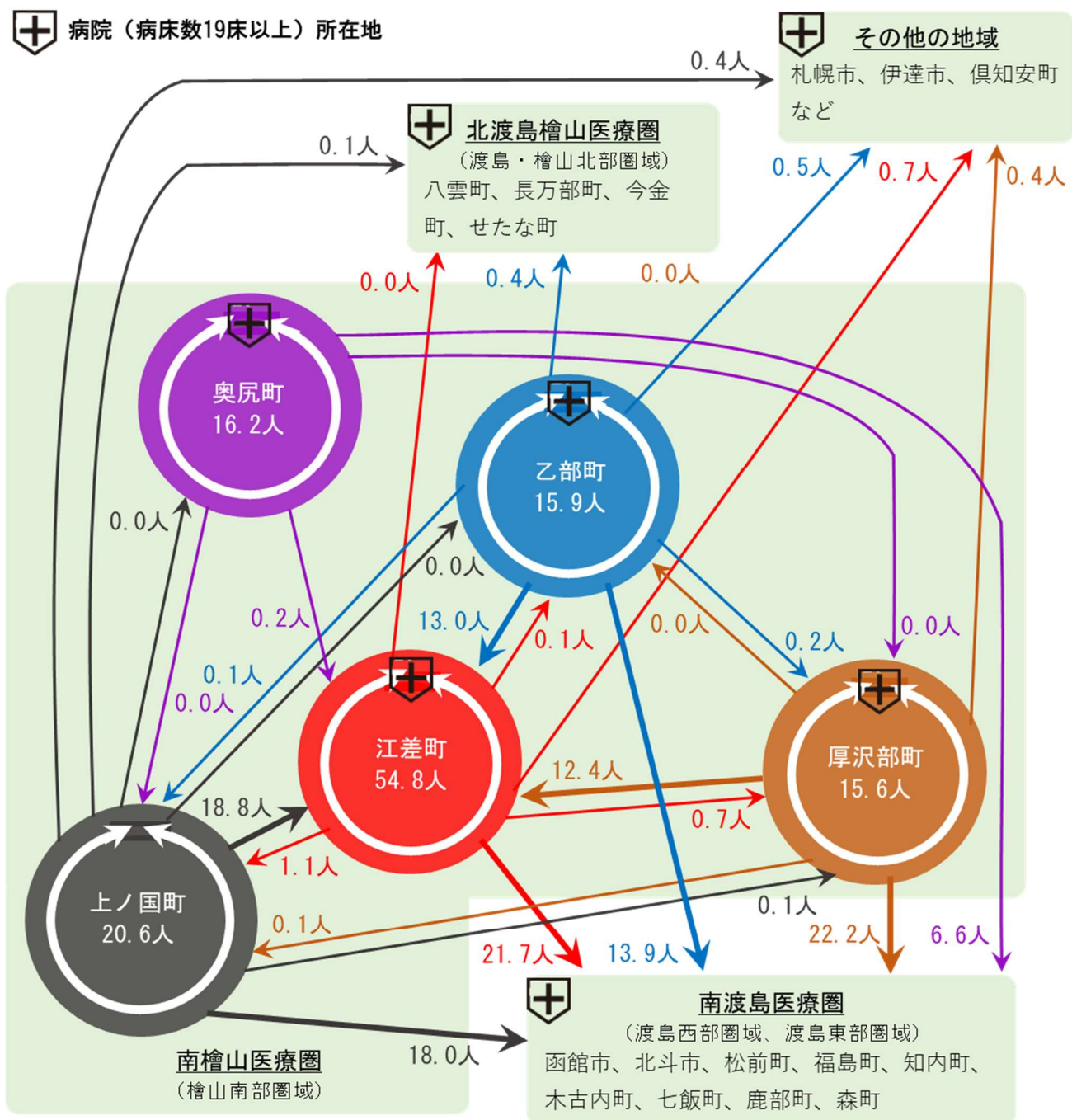
※0.0人は、単位未満の移動があることを指す。

【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業  
「R2.4～R3.3診療のレセプトデータ（国保、退職国保、後期高齢分）」を加工して作成

図3-18 渡島檜山北部圏の町別の受療動向

[檜山南部圏]

- ・江差町、上ノ国町、乙部町、奥尻町は自町内での通院が最も多く、厚沢部町は南渡島医療圏（渡島東部圏・渡島西部圏）への通院が多い。



※0.0人は、単位未満の移動があることを指す。

【出典】北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課 医療データ分析センター事業

「R2.4～R3.3 診療のレセプトデータ（国保、退職国保、後期高齢分）」を加工して作成

図 3-19 檜山南部圏の町別の受療動向



## イ 通院時の主な移動手段について

[全体]

- ・本地域における通院時の移動手段は、自家用車が最も多い。

表 3-7 道南地域の住民の通院時の主な移動手段

(%)

圏域	市町名	通院時の主な移動手段				
		路線バス	鉄道	自家用車	自転車 徒歩	その他
渡島東部圏	函館市	29.2	0.0	55.5	29.2	5.8
	北斗市	6.9	0.8	88.6	7.6	0.8
	七飯町	7.3	3.5	99.2	16.3	1.2
	鹿部町	6.5	8.5	96.2	13.0	7.2
	森 町	10.5	5.9	88.5	11.3	9.5
渡島西部圏	松前町	5.9	0.0	67.8	5.7	20.6
	福島町	9.9	0.0	93.7	2.8	5.9
	知内町	19.8	0.0	65.1	3.5	34.9
	木古内町	5.5	1.4	71.2	26.0	11.0
渡島・檜山 北部圏	八雲町	4.7	3.5	81.7	17.1	8.2
	長万部町	2.8	3.9	80.3	9.1	9.6
	今金町	9.2	0.0	62.2	14.2	96.1
	せたな町	9.3	0.0	69.0	28.7	48.1
檜山南部圏	江差町	14.8	0.0	61.1	9.4	39.0
	上ノ国町	7.3	0.0	65.4	16.2	40.3
	厚沢部町	3.3	0.0	75.2	10.3	48.9
	乙部町	8.9	0.0	56.8	10.5	47.0

※複数回答可能なため、合計が100%を超える場合がある。

※奥尻町のデータはなし。

【出典】渡島・檜山（総合）振興局アンケート、各市町アンケートを加工して作成

## 用語解説

医療圏：地域の医療需要に対応して、医療資源の適切な配置と医療提供体制の体系化を図るための地域的な単位のこと、北海道では「北海道医療計画」で定めている。

第一次医療圏は、初期医療等を提供する基本的な地域単位であり、市町村の行政区域と同一のもの。第二次医療圏(全道 21 圏域)は、第一次医療圏を広域的に支援し、比較的高度で専門性の高い医療サービスを提供するもの。

### 【道南地域の二次医療圏の構成市町】

二次医療圏名	構成市町
南渡島	函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町
北渡島檜山	八雲町、長万部町、せたな町、今金町
南檜山	江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町

### | 3-6 | 観光の状況

#### (1) 主な観光地

本地域は、北海道の中でも他地域と異なる気候風土や歴史文化を有しており、豊かな自然に恵まれているほか、異国情緒漂う函館市や我が国最北の城下町である松前町など長い歴史に培われた街並みがあり、さらには、函館平野に代表される肥沃な大地が生み出す農産物や太平洋・日本海の2つの海に育まれた海産物といった豊かな「食」など、数多くの魅力が存在し、国内外から多くの観光客が訪れる地域となっている。

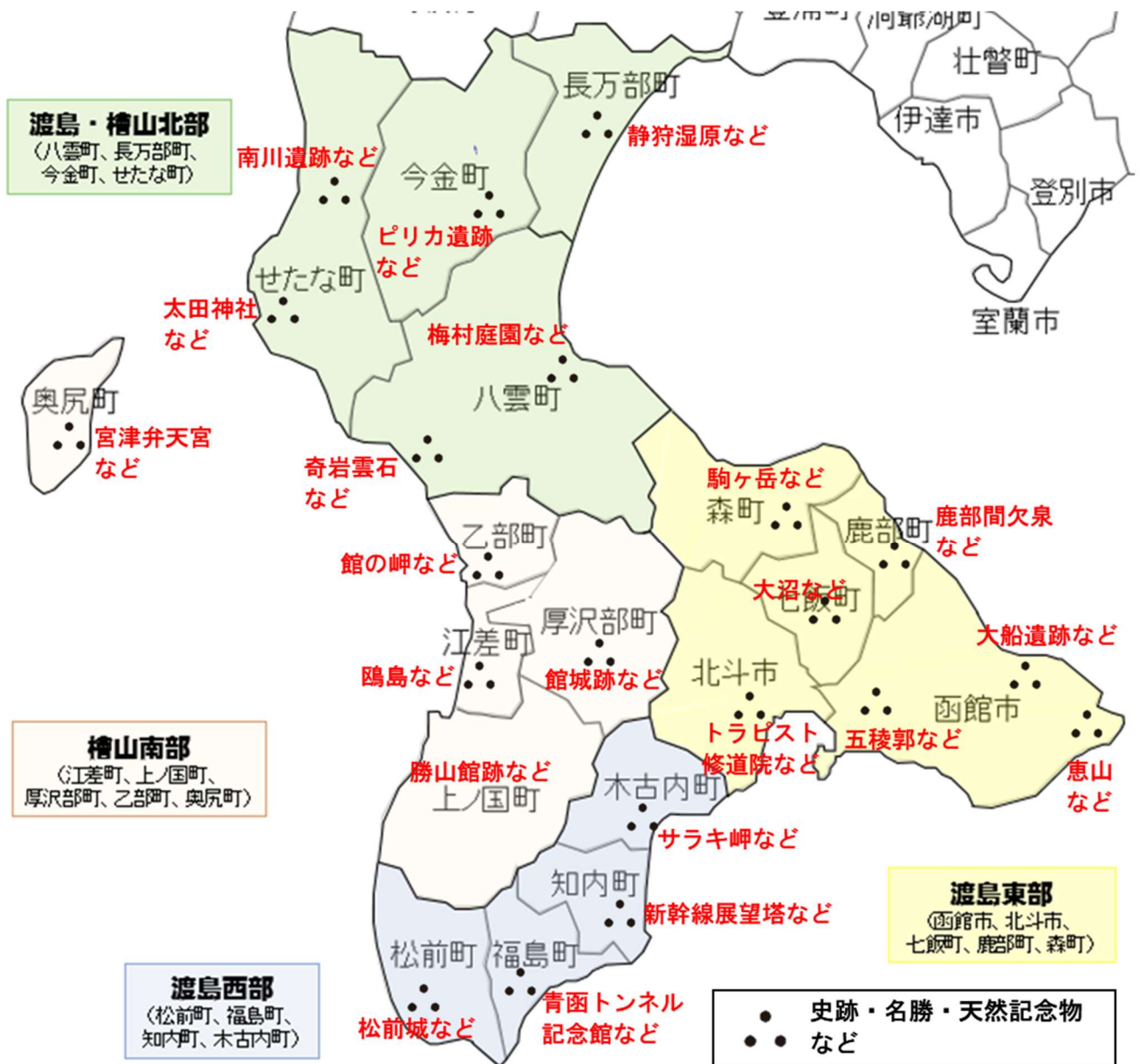
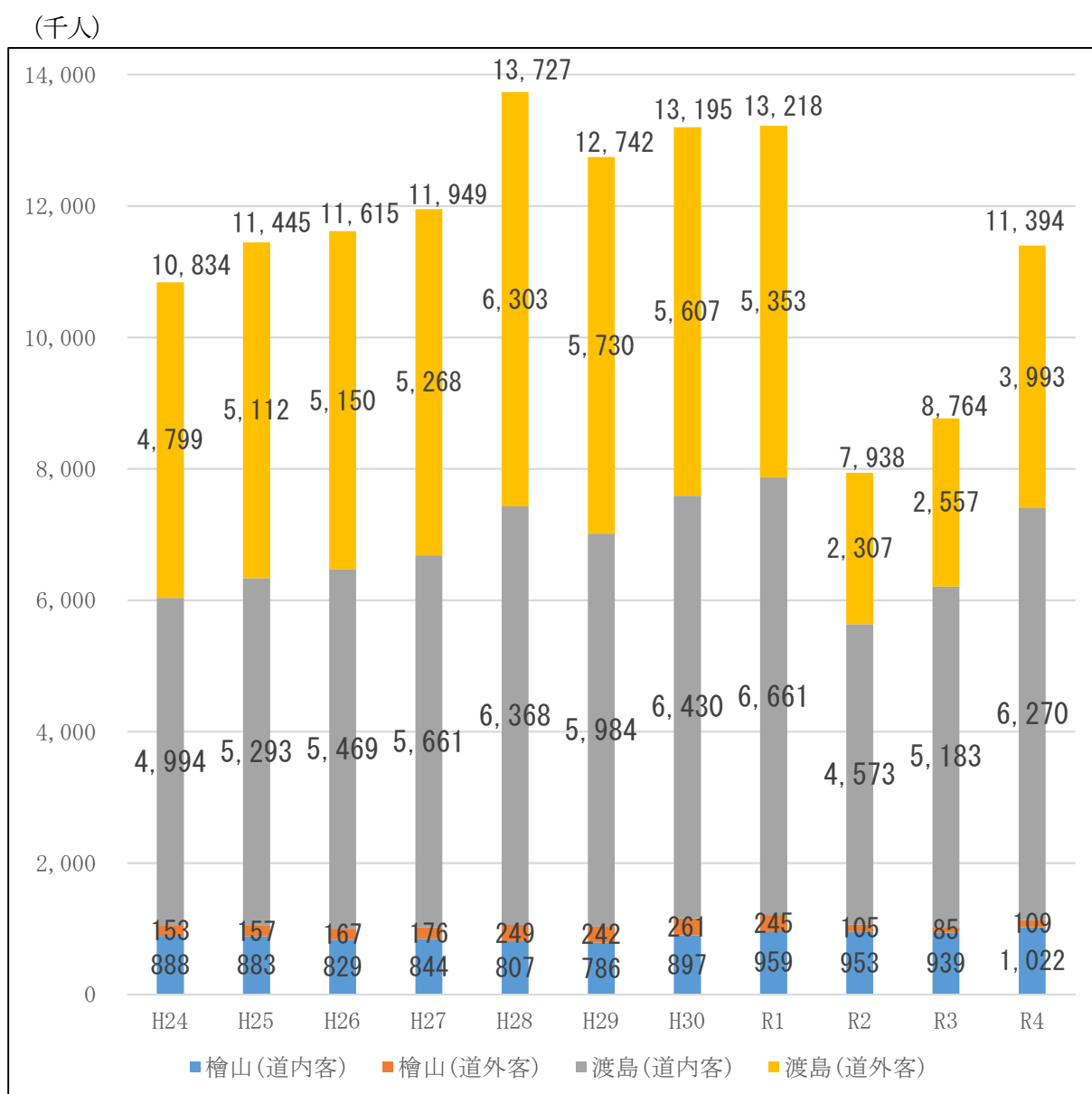


図 3-20 道南地域における主な史跡・名勝・天然記念物など

## (1) 観光入込客数

本地域の観光入込客数は、平成28年度（2016年度）まで増加し、令和元年度（2019年度）まではほぼ横ばいであったが、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて令和2年度（2020年度）に急減し、現在は回復傾向にある。

また、函館市の函館山は、兵庫県神戸市の摩耶山、長崎県長崎市の稲佐山と並び日本三大夜景と評されており、七飯町には網走と並び北海道で初めて国定公園に指定された大沼国定公園があるなど、本地域は道内でも有数の観光資源を有する地域であり、函館市や七飯町は、北海道内の「観光入込客数の多い市町村」の上位20位に入っている。



【出典】北海道渡島総合振興局「渡島管内観光入込客数調査」、北海道檜山振興局「檜山管内観光入込客数調査」を加工して作成

図 3-21 道南地域における観光入込客数推移

表 3-8 北海道内の「観光入込客数の多い市町村」  
 平成 30 年度 (2018 年度)                      令和 3 年度 (2021 年度)

(万人)

(万人)

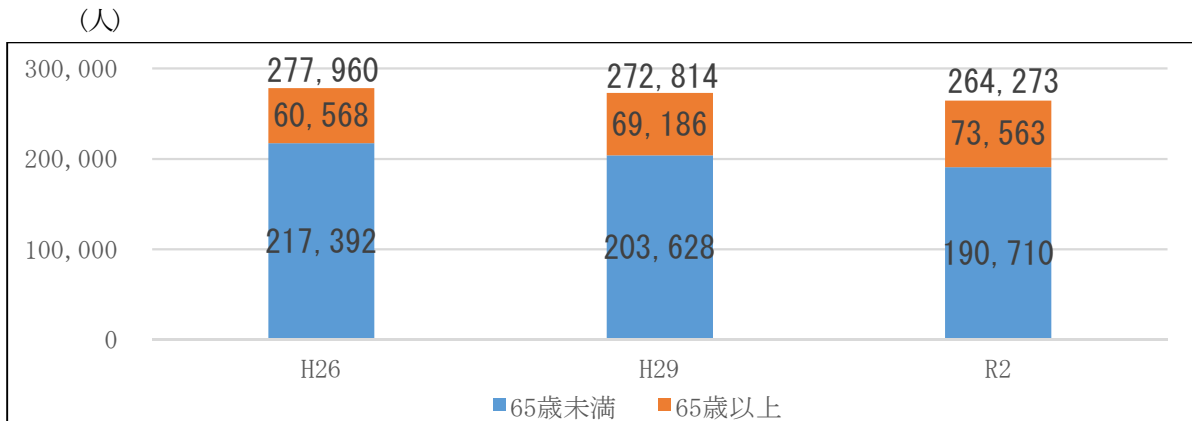
順位	市町村名	観光入込客数	順位	市町村名	観光入込客数
1	札幌市	1,585	1	札幌市	789
2	小樽市	781	2	函館市	346
3	釧路市	530	3	釧路市	276
4	旭川市	527	4	小樽市	266
5	函館市	526	5	石狩市	190
6	千歳市	498	6	白老町	168
7	登別市	378	7	喜茂別町	162
8	帯広市	293	8	旭川市	160
9	洞爺湖町	259	9	苫小牧市	148
10	石狩市	254	10	恵庭市	145
11	喜茂別町	245	11	七飯町	141
12	七飯町	233	12	帯広市	138
13	美瑛町	226	13	千歳市	125
14	壮瞥町	201	14	東川町	122
15	苫小牧市	200	15	江別市	122
16	富良野市	192	16	登別市	120
17	伊達市	173	17	伊達市	118
18	上川町	171	18	富良野市	113
19	占冠村	170	19	洞爺湖町	109
20	ニセコ町	167	20	美瑛町	106

【出典】北海道「観光入込客数調査報告書」を加工して作成

## 3-7 | 運転免許の状況

### (1) 運転免許の保有状況

本地域の運転免許保有数は、人口減少に伴い、減少傾向にあるが、高齢化の進行により高齢者の運転免許保有数は増えている。

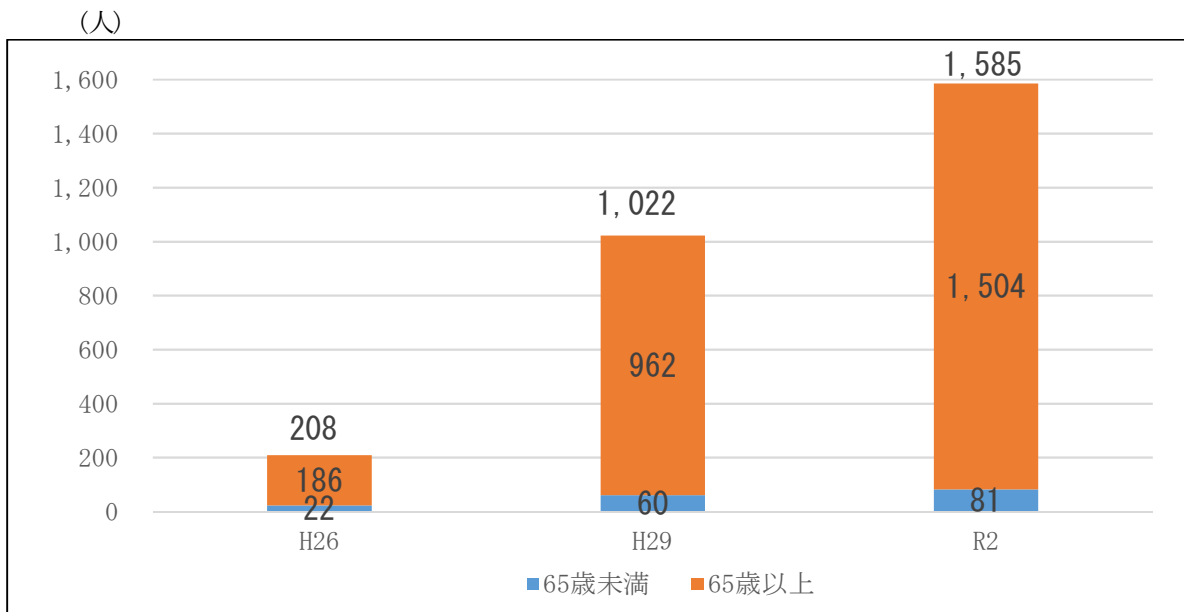


【出典】北海道警察函館方面本部交通課資料を加工して作成

図 3-22 道南地域における運転免許保有数の推移

### (2) 運転免許の返納状況

本地域の運転免許の自主返納件数は、平成 26 年（2014 年）の 208 件から、令和 2 年（2020 年）の 1,585 件と、6 年間で約 7 倍に増加している。



※後志管内寿都町・黒松内町・島牧村の数値を含む。

【出典】北海道警察函館方面本部交通課資料を加工して作成

図 3-23 道南地域における運転免許自主返納件数の推移

## | 3-8 | 地域特性・現況から見える課題

### (1) 人口動態

---

本地域の高齢化率（令和2年）は36.3%と、全道平均（31.8%）、全国平均（28.0%）を上回っている。

令和27年度（2045年度）には、地域経済を支える生産年齢人口（15～64歳）を老年人口（65歳以上）が上回ることで、また、少子化も続くことが予測されている。

今後は、人口減少や高齢者の増加に合わせた移動手段の確保が必要となる。

### (2) 観光動向

---

本地域の観光入込客数は、外国人観光客の増加などを受けて、平成28年度（2016年度）まで増加し（以降、横ばい）、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）に急減したが、新型コロナウイルス感染症の5類移行などにより、今後は増加が見込まれる。

本地域には観光地が点在しており、アフターコロナを見据えた観光客の移動手段の確保など、観光客の受け入れ環境整備を進める必要がある。

### (3) 交通行動

---

本地域の住民は中核都市である函館市や商業施設等の集積する江差町及び八雲町への移動が多く、また、移動手段は主に自家用車であるが、高齢者等の免許返納が増加傾向にあることから、今後、自家用車を運転できなくなる高齢層の移動の受け皿としても、公共交通の確保は重要となり、持続可能な公共交通体系の確保に向けた再構築や、公共交通の利便性向上など、広域的な観点からの対応が必要となる。